

19世紀ドイツ都市街路の族名称に関する研究

正会員 ○加藤 径子*1
 正会員 小川 英明*2
 正会員 河田 克博*3
 正会員 内藤 昌**

■序 論

都市形態の構造的骨格となっている街路は、長さ・幅員・勾配・構造などの物理的特徴を有するとともに、街路の布置や段階構成などによって、都市空間にさまざまな利便性を与える機能的特徴を有している。さらに、街路はそこで展開される都市生活の記憶が蓄積される歴史的特徴をも有する空間であると考えられる。

本論は、こうした都市街路の歴史的・空間的意味を読み解く基礎的作業として、18世紀ドイツの歴史都市を対象に名辞分析を試みたものである。地区名、地景名、坂名、建物名などに関する既報研究の方法・成果を都市街路に拡張して、街路名称の特性を考究し、街路名称が都市生活や都市空間の意図性(領域性、階層性、時間性など)が付託された歴史的遺産であり、都市解説・認識の一つの有効な視座となる可能性を検討することとした。

■研究の対象・方法

(1) 研究対象： 19世紀ドイツの64都市図を収録した『近代ドイツ都市地図集成』¹⁾より街路名称の判読が可能で17都市を対象とした；Bamberg(1831)、Berlin(1899-1917)、Bremen(1845)、Dresden(1865)、Frankfurt(1837)、Freiburg(1840)、Hamburg(1811)、Hannover(1823)、Hildesheim(1880)、Köln(1885)、Leipzig(1813)、München(1832)、Nürnberg(1840)、Regensburg(1840)、Stralsund(1888)、Trier(1832)、Weimar(1826)。

(2) 研究方法： 街路名称は「個名」と「族名」に分解される²⁾が、このうち「族名」(呼称)に着目し、これを①族名の判読・集計、②族名の分布状況からみた使用特性、③族名使用頻度からみた都市類型化、の3点から考察した。

■街路族名称の都市内分析

1) 17都市全体では23種の族名が認められ、多様な名称が街路に付与されている。

2) 全都市での出現頻度では *straße* が一番多く(68.7%)、すべての都市に必ず使用されている。これに次いで *gasse* (16.5%)、*platz* (6.1%)、*markt* (2.7%)、*weg* (2.0%) の順となっている(表-1)。

3) 各族名では次のような使用特性がある：① *straße* と *gasse* は最も普遍的な街路名称であると考えられ、街路長や幅員には明確な特徴は認められない。両族名とも、都市内の幹線街路に使用される例も、主要な通りから外れた副次的街路に使用されている例も等しく存在しており、*straße* (大通り) と *gasse* (小街路) といった序列はみられない。なお *gasse* は旧市街地で使用される傾向が多少認められる。② *platz* は大聖堂、教会などの主要な建築物の前にある広場に至る街路で使用されることが多い。広場そのものの名称と重複する事例や、かつて存在していたと推定される広場名称を継承している事例もある。③ *markt* は市場として独立した空間に至る街路に使用される場合と、定期的に市場がたつと推定されるやや幅員の街路に使用される場合がある。④ *weg* は、都市の辺縁部に設けられた街路にみられ、都市間道路あるいは都市と砦を結ぶ街路に用いられる族名と考えられる。⑤ 城壁都市の多かったドイツでは、近代の囲郭取り壊し跡に幅員街路が敷設されることが多く、こうした街路は *wall* と名付けられることが普通である。また城壁跡地街路に植栽が施されている場合には *allee* と称される傾向がある。

■街路族名称の都市間比較

各都市における族名の頻出割合をもとに、クラスター分析(ユークリッド距離、ワード法)を行い、都市の類型化を行った結果、図-1に示すように3類型に分類で

表-1 ドイツ都市の族名別街路数

族名	Bamberg	Berlin	Bremen	Dresden	Frankfurt	Freiburg	Hamburg	Hannover	Hildesheim	Köln	Leipzig	München	Nürnberg	Regensburg	Stralsund	Trier	Weimar	計	
<i>straße</i> 道路、大道、街路、通り	3	334	113	94	6	2	48	507	58	145	492	112	20	26	48	4	4	2016	68.7%
<i>gasse</i> 路地、街路、通り	21	5		51	76	28				66	15	16	62	92		33	19	484	16.5%
<i>platz</i> 広場、広小路、辻	4	36	2	15	3	2		12	4	12	30	15	14	20	2	3	4	178	6.1%
<i>markt</i> 市場、広場	4	4	4	4	6	1	9		3	11	6	6	7	8	2	3	2	80	2.7%
<i>weg</i> 道、通路、小道		2	1	5			3	19	3	5	20	1						59	2.0%
<i>allee</i> 並木道		17	2	6			1	1	3		6						1	37	1.3%
その他: <i>berg, stieg, wall</i> など	4	3	1	1	11	0	17	0	10	9	3	2	13	1	1	0	6	82	2.8%
計	36	401	123	176	102	33	78	539	81	248	572	152	116	147	53	43	36	2936	100%

A Study on Street Names in German Cities in the Nineteenth Century

KATO Michiko et al.

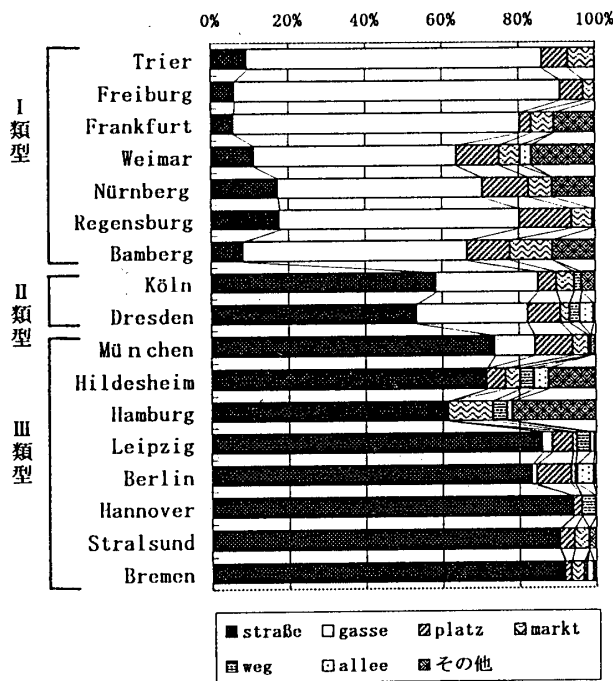


図-1 街路族名によるクラスター分析

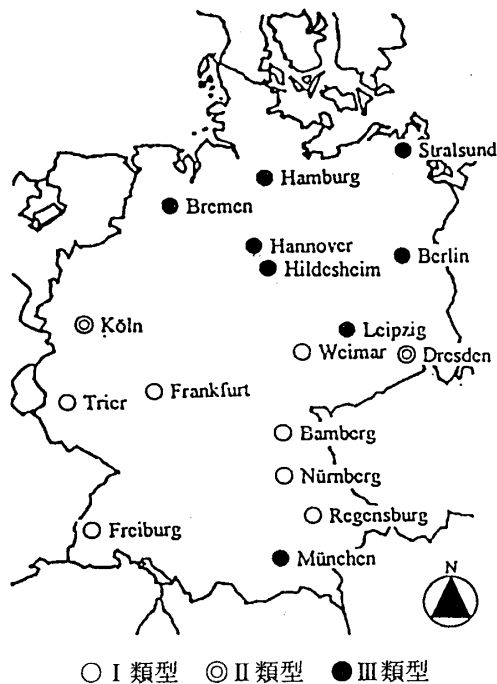


図-2 クラスター類型による都市分布

きた。各類型の都市の空間分布を図-2に示す。

(1) I 類型には Frankfurt、Trier、Freiburg、Regensburg、Bamberg、Weimar、Nürnberg の7都市が含まれる。gasse が全街路数の50%以上を占めており、頻出数の少ない族

名が多いこと、つまり多様な街路族名が使用されていることが特徴である。最も多く出現する gasse は、都市内で広範に使われており、主要施設や民家を縦横に結んでいる。次いで多く頻出する straße は、都市の中心を走る街路や主要な建築物に通じる街路のみに使用され、この類型都市内では幹線街路に与えられる族名となっている。地理的にはドイツの南半分位置している。

(2) II 類型には Köln、Dresden の2都市が属する。これらの都市では straße が50%以上を占めているが、gasse も30%弱の使用例がある。これらの都市では straße と gasse がほぼ拮抗して使用されている。しかし、その空間的分布では、gasse が古い都市核であった旧市街地内に多くみられる傾向があり、特に Köln ではそれが顕著である。地理的にはドイツ中央部東端と西端に位置している。

(3) III 類型には、Hildesheim、Hamburg、München、Leipzig、Berlin、Hannover、Stralsund、Bremen の8都市が属する。straße の名称を持つ街路が全体の80%以上を占めている。gasse の出現は極めて少なく、全く見あたらない都市さえある。地理的にはドイツの北半分に分布している。

■ 結論

以上の分析より、①19世紀ドイツ都市の街路族名には多様な種類があるが、頻出数では straße と gasse が他名を圧倒して多く使用されており、最も一般的な街路族名であると考えられる。② straße や gasse は一般的な都市内街路に用いられているが、gasse は旧市街地内に使用される傾向もある。③また、platz や markt は、主要都市施設である教会や市場に関連して使用されていること、④ wall や allee は旧城壁の取り壊し跡地に建設される街路に用いられること、⑤都市間街路はほぼ weg と命名されること、などの特徴的な使用が認められた。さらに、族名の頻度に基づくクラスター分析からは3つの類型が認められ、ドイツの北部、南部、中間部にほぼ明確な使用の差異が認められた。

言語学的には gasse はドイツ南部では straße に相当する方言とされているが、両族名の併用が認められているため、分析結果をただちに言語学的方言に帰することもできないと考えられる。結果を都市空間的に解釈するため、さらに族名の時間的変容や、他国での族名使用の特性との比較分析を行う必要があると考える。

参考文献

1. ドイツ都市地図刊行会編 (1998,1999)『近代ドイツ都市集成 1811-1930』(全2巻)、遊子館
2. 足利健亮(1997)『景観から歴史を読む 地図を解く楽しみ』、日本放送出版協会

*1 名古屋工業大学大学院社会開発工学専攻 博士後期課程
 *2 愛知産業大学造形学部建築学科 教授・Ph. D
 *3 名古屋工業大学工学部社会開発工学専攻 助教授
 *4 愛知産業大学造形学部建築学科 教授・工学博士

Graduate School, Dept. of Urban & Civil Engineering, Nagoya Institute of Technology, M. Eng.
 Prof., Dept. of Architecture, Aichi Sangyo University, Ph. D.
 Assoc. Prof., Dept. of Urban and Civil Engineering, Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.
 Prof., Dept. of Architecture, Aichi Sangyo University, Dr. Eng.